

特別支援教育だより⑪

特別支援教育コーディネーター

＜上手な伝え方＞

私たちは、ほめたり叱ったりしながら、子どもたちに多くのことを伝えようとしています。
上手なほめ方・叱り方についてまとめました。

◎上手なほめ方

ほめることにより自己肯定感が育ちます。自己肯定感が高い子は、失敗したり困難にぶつかったりしたときにもくじけない、強い子に育ちます。

しかし、ほめることは意外と難しいものです。ほめるコツを紹介します。

①完了を待たず、途中でもほめる。

課題が全部終わったらほめる…ではなく、途中でも、やり始めただけでも、ほめるチャンスです。

②できなかった9を注意するより、できた1に注目する。

特に自己肯定感が低い子は、できた1をほめて自信をつけてあげることが大切です。自信はやる気につながり、できなかった9も少しずつできるようになってきます。

③すぐに使えるほめ言葉「ありがとう」

「ありがとう」は、「自分のやったことが人の役に立った」「自分の存在に意味があった」と思える言葉です。自己肯定感を高められる言葉です。



にっこり笑顔で
「ありがとう」



◎上手な叱り方

私たちが叱るは「悪い行いをやめさせ、正しい行いを身につけさせる」ためです。叱るときに怒りの感情をのせると、伝えたいことが伝わりにくくなってしまいます。

①子どもを止めて、目を見て、短い言葉で、改善してほしいことを伝える。

子どもの注意を自分に向けて、同じ目線で、子どもにわかる言葉で話すと伝わります。

②「〇〇してはダメ！」よりも「〇〇しましょう。」

「〇〇してはダメ！」では、どうしたらいいかわからない子もいます。

例：「忘れ物をしてはいけません」→「寝る前に連絡帳を必ず確認しましょう」

③人格ではなく行為を叱る。

人格を否定すると自尊心が傷つきます。 例：×「何度言ってもお前はダメだなあ」

(例外：命に関わる危険な行為や、いじめなどの卑劣な行為に対しては、感情を込めて指導します。)

信頼関係がないと、いくら叱っても子どもの心には届きません。

日頃からほめて、認めて、信頼関係を築くことが大切です。

◎上手な伝え方

注意するときに、子どもを認める言葉を一言添えると、注意を受け入れやすくなります。「気持ち」は認めるけれど「行動」はよくないと伝えます。

例：雨の日に教室で騒ぐ。→「思い切り遊びたいんだよね。でも教室では静かに過ごしましょう。」

☆自分の気持ち（要求）を伝えるときに、相手の気持ちを考えた言い方をすると、お互い気持ちよく過ごすことができます。

